

## 川連漆器で給食

### 湯沢市 来年度から導入の方針



湯沢市は 2025 年度から、小中学校の給食の汁物食器に市の伝統工芸品・川連漆器を導入する方針を固めた。市は児童生徒が地元の伝統産業に触れる機会をつくり、古里への愛着と誇りの醸成につなげたい考えだ。

31 日に開会した市議会 6 月定例会へ提出

した本年度一般会計補正予算案に、25 年度と 26 年度の債務負担行為として関連費用 1228 万円を盛り込んだ。可決されれば児童生徒用と教職員用計 2900 個の制作に取りかかる。中学校が 25 年度中、小学校は 26 年度中の使用開始を計画している。

川連漆器は旧稲川町、旧皆瀬村で学校給食に使われていた。05 年の市町村合併を経て各校の調理が市学校給食センターに一本化された 17 年度以降、全ての食器がポリエチレンナフタレート樹脂製に統一された。地域住民から漆器使用の再開を望む声が寄せられたことを受け、市は県漆器工業協同組合などの協力を得て 18 年度に検討を始めた。

使いやすさに加え、洗浄や消毒、運搬といったセンター業務の効率性維持をテーマに試作を重ね、今年 2 月には稲川小の 4~6 年生と教職員を対象に実証実験を開始。「食べやすく感じた」「給食の高級感が増した」などの好意的な声が寄せられたという。

一方で「(漆器の底の) 高台が滑りやすいので改良してほしい」との意見もあったといい、調整していく方針。耐久性を高めるため、全体の厚みを増すことも検討している。

市が導入を想定している漆器はトチノキ製で、直径 12 センチ。実証実験では漆器の内側と外側に黒と朱色、ベンガラの 3 色を組み合わせ 5 パターン作ったが、導入する漆器は 1 パターンにすることを計画している。(小林智彦) (令和 6 年 6 月 1 日 (土) 秋田魁新聞より一部抜粋)